

グーンはフィリピン最大の財閥 SM プライムと廃棄物処理に関する合弁会社設立で合意

株式会社グーンと SM プライムホールディングス株式会社は、SM プライムが 70%、グーンが 30%の持ち株割合の廃棄物処理に関する合弁会社の設立に合意しました。



SM プライム執行委員会のハンス・シー会長とグーンの藤枝慎治 CEO は、古紙とプラスチックを代替エネルギー用の「フラフ燃料」にリサイクルする廃棄物管理ソリューションを模索する覚書の署名式において握手した。

株式会社グーンは、日本の横浜市に本社を置き、材料回収・リサイクル施設の運営と環境ソリューションサービスを行っています。グーンは、2014 年にセブ島政府の招待を受け、「未来に向けて幸せな環境を創造することで地球と社会の調和を維持する」という使命に沿って、マテリアルリサイクルが不可能な廃棄物から「フラフ燃料」と呼ばれる化石代替燃料の生産を開始しました。

この使命に共鳴し、SM プライムは、日本のベストプラクティスに従い体系的な廃棄物管理と資源回収のためのインフラ開発に積極的に参加するためにグーンと提携しました。この合弁事業は、フィリピン全土での資源循環に資するインフラ整備を実現し、埋め立ての影響を軽減し、地方自治体 (LGU) の資源再生施設の運営を補完することを目的としています。



グーン 専務取締役兼フィリピン支店長の小西武史氏 (右から 2 人目) が、固形化石燃料に代わる持続可能な代替燃料に関する日本でのベストプラクティスを説明する。

グーンの「フラフ燃料」は、リサイクル不可能またはリサイクルが困難な廃棄物から、選別、破碎、圧縮梱包を通じてユーザーの品質基準を満たすように製造されます。石炭などの固体化石燃料の代替として、セメント窯や製紙工場や発電所の工業用ボイラーに燃料を供給します。このアプローチは、日本における埋め立て廃棄物の管理に効果的であることが証明されており、様々な製品の生産に寄与する燃料として廃棄物にいわば第二の人生を提供し、ウェストピッカーがこれらの施設で正式な廃棄物選別の担い手となる機会を生み出しています。



グリーンは **SM プライム** と協力して廃棄物管理インフラを開発し、フィリピン全体の埋め立ての影響を最小限に抑えることを目指しています。

「フラフ燃料」は、日本における廃棄物の蓄積を抑制するためのさまざまな解決策の 1 つです。**SM プライム** と グリーンのパートナーシップにより、回収または削減技術のさらなる導入を検討し、廃棄物が無駄にならないようにします。



この協力では、資源再生技術の導入を強化し、廃棄物資源のより効率的な利用を確実にします

。

SM プライム の執行委員会のハンス・シー会長は、地域社会にプラスの影響を与える取り組みを強調し、「**SM プライム** が先駆的な固形廃棄物管理技術への投資を通じてフィリピンにおける社会と環境の溝を埋めるという共同使命を持ってグリーン ジャパンと提携することに興奮しています。このことにより最終的に **SM プライム** がサービスを提供するすべてのコミュニティに利益をもたらすでしょう。」と語りました。

グリーンの藤枝慎治 **CEO** は、フィリピンにプラスの影響を与えるという同社の献身的な姿勢を強調し次のように述べました。「フィリピンに対して資源循環システムの変革という大きな貢献をするためにあらゆる努力をする準備ができており、**SM プライム** とのパートナーシップにより、私たち取組みが成功できることに何の疑いもありません。」

フィリピン環境天然資源省（DENR）のトニ・ユロ・ロイザガ長官は、持続可能な廃棄物管理の実践を進める上でのこのようなパートナーシップの重要性を強調しました。同氏は、「DENR は固形廃棄物管理の課題に取り組む開発パートナーや民間部門と協力し続けています。分別と処理のための商業規模における適切な移転技術の導入は循環経済の達成に向けた重要なステップです。SM プライムとグーンのようなパートナーシップは持続可能な未来を形作る上で重要な役割を果たします。」と述べました。